

# 2016年度決算の概要 及び 2017年度業績予想の概要

三井化学株式会社

2017年5月12日

本資料の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

# 目次

## 1. 2016年度決算の概要

1)2016年度 事業概況およびトピックス	… 1、2
2)決算の概要	… 3、4
3)セグメント別 売上高・営業利益の内訳 (増減分析 対前年決算)	… 5
4)営業外損益及び特別損益の内訳	… 6
5)貸借対照表	… 7
6)キャッシュ・フロー計算書	… 8

## 2. 2017年度業績予想の概要

1)2017年度のトピックス	… 9
2)業績予想の概要	…10
3)セグメント別 売上高・営業利益の予想 (対前年決算)	…11
4)営業利益推移 (15年度決算→16年度決算→17年度予想)	…12
5)事業セグメントの動向	…13、14
6)営業外損益及び特別損益の内訳	…15
7)キャッシュ・フロー計算書	…16
8)株主還元強化	…17
9)連結経営データ	…18

3. 補助資料	…19~29
---------	--------

# 1. 2016年度決算の概要

---

# 1) 2016年度事業概況およびトピックス

## <事業概況>

- ◆**モビリティ**： エラストマー、機能性コンパウンド及びポリプロピレン・コンパウンドは、主に海外を中心に自動車部品関連材料の需要好調が継続、また機能性ポリマーも、ICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。
- ◆**ヘルスケア**： ビジョンケア材料の販売は堅調に推移、不織布は、プレミアム紙おむつの消費は堅調に推移したものの、流通在庫消化の影響が継続。  
歯科材料は、欧米を中心に販売は堅調。
- ◆**フード&パッケージング**： コーティング・機能材及び機能性フィルム・シートの販売は堅調、一方、農薬は前年比で減販となった。
- ◆**基盤素材**： 内需堅調継続、ナフサクラッカーを始めとする設備稼働が高水準で推移。また、主要サプライヤーのトラブル等に起因し、石化製品等の海外市況は高水準で推移。  
大型市況製品の構造改革は、計画どおり実施。

# 1) 2016年度事業概況およびトピックス

## <第4四半期のトピックス>

- ・世界初、調光性色素を含有した高屈折レンズ材料を開発（17年1月）
- ・三井化学アグロ、ベルギー王国 Belchim Crop Protection社の株式取得（17年2月）
- ・三井化学SKCポリウレタン、インドでのシステムハウス現地法人を設立（17年2月）
- ・タイにおける通気性フィルム製造設備の本格稼働開始（17年2月、+4,200トン/年）
- ・三井化学アグロ、タイ王国 Sotus International社の株式追加取得（17年3月）
- ・新規特殊イソシアネート2製品の量産化（17年3月、2,000トン/年）

## 2) 決算の概要

(単位：億円)

摘 要	15年度決算	16年度決算	増減	増減率	前回予想 (17.2.2発表)
売上高	13,439	12,123	△ 1,316	△10%	11,850
営業利益	709	1,021	312	44%	970
営業外損益	△ 77	△ 49	28	—	△ 60
経常利益	632	972	340	54%	910
特別損益	△ 219	△ 114	105	—	△ 100
税金等調整前 当期純利益	413	858	445	108%	810
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	648	418	182%	550
為替レート(円/US\$)	120	108	△ 12		109
国産ナフサ(円/KL)	42,800	34,700	△ 8,100		34,700
年間配当	8 円/株	14 円/株*	+6 円/株	—	11 円/株

\*普通配当:12円(中間:5円、期末:7円)+記念配当:2円

## 2) 決算の概要

(単位：億円)

摘 要	16年3月末	17年3月末	増減	増減率
有 利 子 負 債	4,730	4,399	△ 331	△7%
Net 有 利 子 負 債	3,934	3,558	△ 376	△10%
自 己 資 本	3,819	4,497	678	18%
Net D / E レシオ ( 倍 )	1.03	0.79	△ 0.24	—
自 己 資 本 比 率 ( % )	30.3	33.9	3.6	—

(単位：社)

摘 要	16年3月末	17年3月末	増減
連 結 対 象 会 社 数			
連 結 子 会 社	95	94	△ 1
持 分 法 子 会 社	8	8	0
持 分 法 関 連 会 社	28	29	1
連 結 対 象 会 社 計	131	131	0

### 3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳 (増減分析 対前年決算)

(単位：億円)

セグメント	売上高			営業利益			増減内訳		
	15年度決算	16年度決算	増減	15年度決算	16年度決算	増減	数量差	交易条件	固定費他
モビリティ	3,182	2,933	△ 249	449	407	△ 42	39	△ 79	△ 2
ヘルスケア	1,611	1,342	△ 269	116	101	△ 15	△ 12	△ 6	3
フード & パッケージング	1,952	1,825	△ 127	203	206	3	14	△ 11	0
基盤素材	6,308	5,656	△ 652	10	385	375	12	295	68
その他	386	367	△ 19	△ 69	△ 78	△ 9	-	-	△ 9
合計	13,439	12,123	△ 1,316	709	1,021	312	53	199	60



## 4) 営業外損益及び特別損益の内訳

### 営業外損益

(単位：億円)

摘 要	15年度決算	16年度決算	増減
持分法投資損益	△ 22	2	24
金融収支	△ 26	△ 21	5
為替差損益	△ 19	△ 13	6
その他	△ 10	△ 17	△ 7
営業外損益 合計	△ 77	△ 49	28

### 特別損益

(単位：億円)

摘 要	15年度決算	16年度決算	増減
資産売却益	51	26	△ 25
事業譲渡益	37	—	△ 37
特別利益計 (A)	88	26	△ 62
固定資産処分・売却損	56	73	17
減損損失	241	41	△ 200
投資有価証券評価損	—	2	2
関連事業損失	10	—	△ 10
その他	—	24	24
特別損失計 (B)	307	140	△ 167
特別損益 合計 (A-B)	△ 219	△ 114	105

# 5) 貸借対照表

(単位：億円)

摘 要	16年3月末	17年3月末	増減	摘 要	16年3月末	17年3月末	増減
流動資産	( 6,282 )	( 6,789 )	( 507 )	負債	( 8,157 )	( 8,109 )	( △ 48 )
現 預 金	796	841	45	買 掛 債 務	1,183	1,457	274
売 掛 債 権	2,453	2,717	264	有 利 子 負 債	4,730	4,399	△ 331
た な 卸 資 産	2,407	2,475	68	そ の 他	2,244	2,253	9
そ の 他	626	756	130	純 資 産	( 4,432 )	( 5,146 )	( 714 )
固定資産	( 6,307 )	( 6,466 )	( 159 )	株 主 資 本	3,824	4,378	554
有 形 固 定 資 産	4,134	4,094	△ 40	その他の包括利益 累 計 額	△ 5	119	124
無 形 固 定 資 産	402	352	△ 50	非 支 配 株 主 持 分	613	649	36
投 資 等	1,771	2,020	249	合 計	12,589	13,255	666
合 計	12,589	13,255	666				

## 6) キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

摘 要	15年度決算	16年度決算	増減
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	1,459	1,004	△ 455
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 364	△ 474	△ 110
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	1,095	530	△ 565
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 790	△ 476	314
IV. その他	△ 29	△ 7	22
現預金等増減	276	47	△ 229

## 2. 2017年度業績予想の概要

---

# 1) 2017年度のトピックス

## <トピックス(予定)>

- ・三井化学タイランド株式会社設立 (17年4月)
- ・名古屋工場における電解液製造設備 営業運転開始  
(17年4月、5,000トン/年)
- ・ポリプロピレン・コンパウンド能力増強 営業運転開始  
(17年度第2四半期、アメリカ・メキシコ・インドの3拠点で+5万トン/年)
- ・熱可塑性エラストマー「ミラストマー®」能力増強 営業運転開始  
(17年度第3四半期、+5,000トン/年)
- ・台湾プラスチック社との電解液JV設備増強 営業運転開始  
(17年度第3四半期、+3,500トン/年)
- ・三井化学SKCポリウレタン、システムハウス インド拠点稼働開始  
(17年度第4四半期、1.3万トン/年)
- ・名古屋工場における高機能不織布設備 営業運転開始  
(17年度第4四半期、1.5万トン/年)
- ・柔軟性と伸縮機能に優れた高機能不織布設備 営業運転開始  
(17年度第4四半期、6,000トン/年)

## 2) 業績予想の概要

(単位：億円)

摘要	16年度決算 (a)		17年度予想 (b)		増減 (b)-(a)	
	4-9月	年度	4-9月	年度	年度	%
売上高	5,687	12,123	6,200	13,000	877	7%
営業利益	454	1,021	430	980	△ 41	△4%
営業外損益	△ 35	△ 49	△ 20	△ 20	29	-
経常利益	419	972	410	960	△ 12	△1%
特別損益	△ 22	△ 114	△ 20	△ 70	44	-
税金等調整前 当期純利益	397	858	390	890	32	4%
親会社株主に 当期純利益	278	648	290	650	2	0%

為替レート(円/US\$)	105	108	110	110	+ 2
国産ナフサ(円/KL)	31,450	34,700	42,000	42,000	+ 7,300

配当	中間	期末	中間	期末	中間増減	期末増減
	5 円/株	9 円/株	8 円/株	8 円/株	+ 3 円/株	△1 円/株
通期	14 円/株*		通期 16 円/株		通期 + 2 円/株	

\*普通配当:12円+記念配当:2円

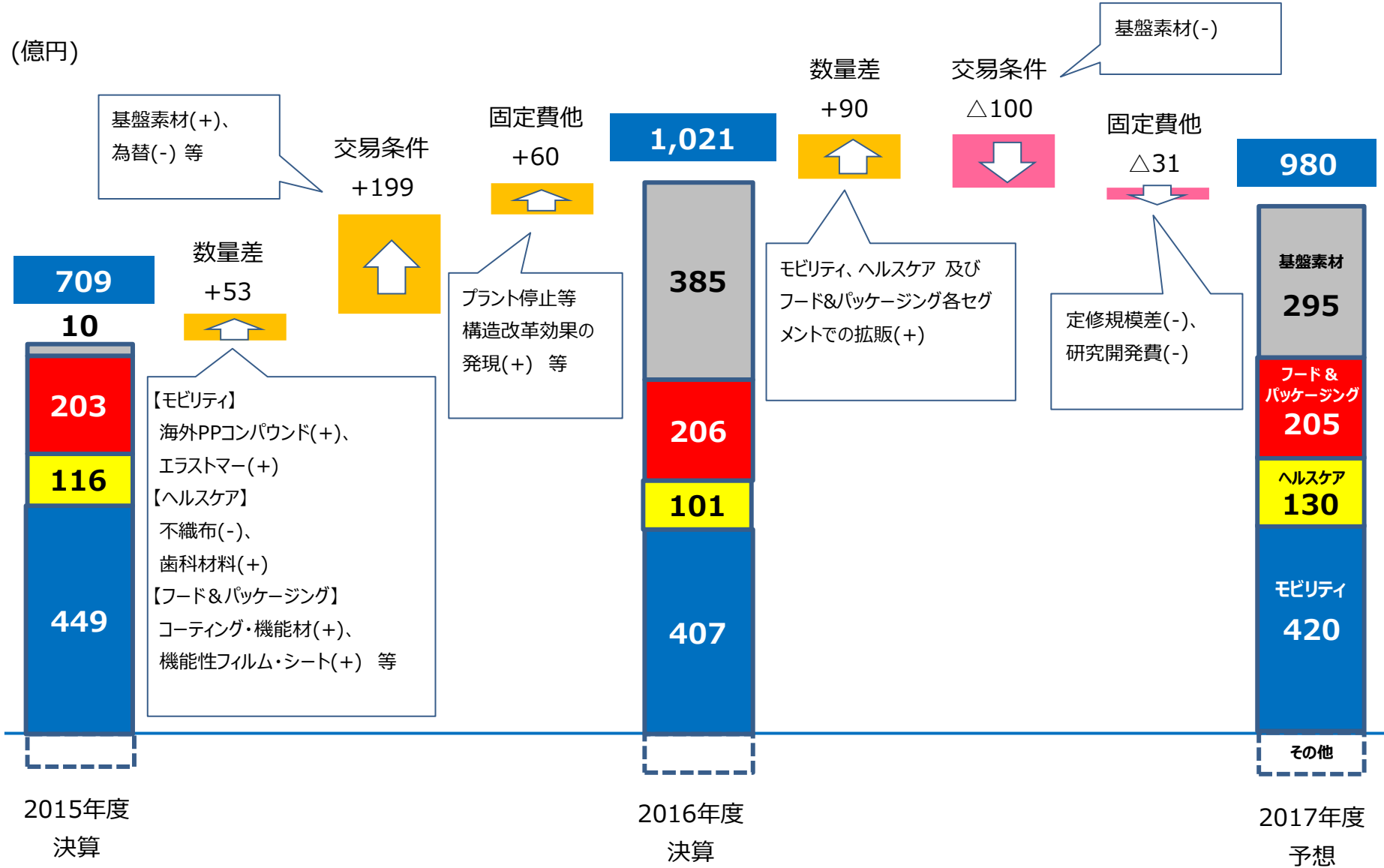
17年度予想の配当金につきましては、2017年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行う予定ですが、株式併合前の株式数を基に算出しております。

### 3) セグメント別 売上高・営業利益の予想 (対前年決算)

(単位：億円)

セグメント	売上高					営業利益				
	16年度決算		17年度予想		増減 (b) - (a)	16年度決算		17年度予想		増減 (d) - (c)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)		4-9月	年度 (c)	4-9月	年度 (d)	
モビリティ	1,417	2,933	1,500	3,100	167	211	407	205	420	13
ヘルスケア	672	1,342	650	1,400	58	54	101	50	130	29
フード & パッケージング	883	1,825	900	1,900	75	110	206	85	205	△ 1
基盤素材	2,532	5,656	3,000	6,300	644	118	385	130	295	△ 90
その他	183	367	150	300	△ 67	△ 39	△ 78	△ 40	△ 70	8
合計	5,687	12,123	6,200	13,000	877	454	1,021	430	980	△ 41

# 4) 営業利益推移 (15年度決算→16年度決算→17年度予想)



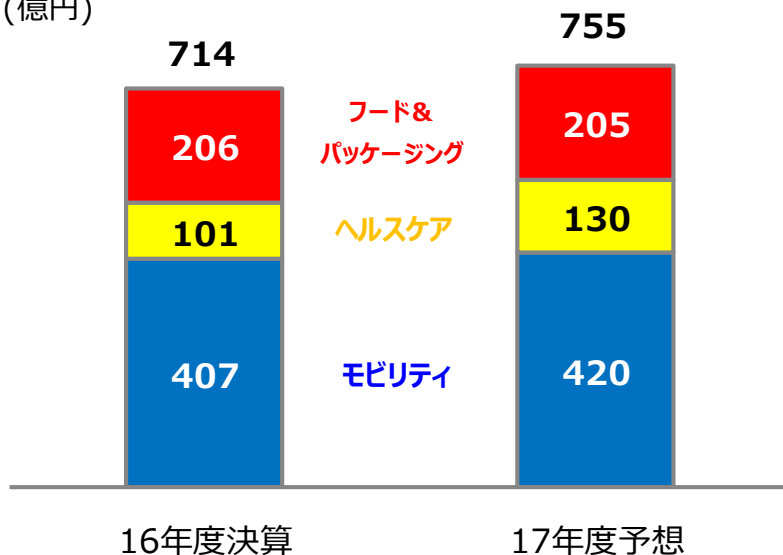


# 5) 事業セグメントの動向 (モビリティ、ヘルスケア 及び フード&パッケージング セグメント)

## <事業環境>

- ◆**モビリティ**: グローバル自動車生産台数は、緩やかに拡大。  
また、ICT関連も成長継続。
- ◆**ヘルスケア**: ビジョンケア材料及び歯科材料の需要は、堅調に推移。  
不織布は、プレミアム紙おむつの需要拡大が継続。
- ◆**フード&パッケージング**: 需要は、堅調に推移。

(億円)



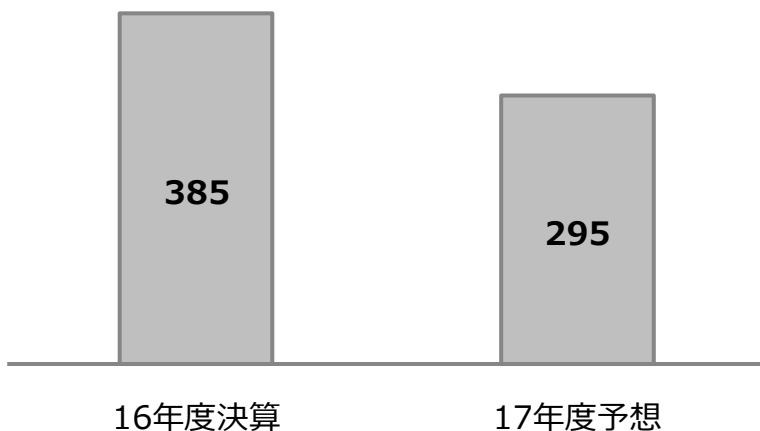
営業利益の方向感	
16年度決算 → 17年度予想	
モビリティ	↗ 海外PPコンパウンド、機能性コンパウンド、機能性ポリマー拡販(+) 等
ヘルスケア	↗ ビジョンケア材料、不織布、歯科材料拡販(+) 等
フード&パッケージング	→ コーティング・機能材、機能性フィルム・シート、農薬拡販(+) 等

## 5) 事業セグメントの動向 (基盤素材セグメント)

### <事業環境>

- ◆国内石化事業については、内需堅調、設備稼働が高水準で推移。
- ◆16年度末にかけて高騰した海外市況は、徐々に軟化。

(億円)



### 基盤素材セグメントの内訳

	売上高割合 (%)	営業利益の方向感	
		16年度決算 → 17年度予想	
石化原料 及び ポリオレフィン	60%	↘	交易条件(-)、定修規模差(-) 等
フェノール、PTA・ PET、工業薬品	35%	→	
ポリウレタン材料	5%	→	

注) セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値です。

## 6) 営業外損益及び特別損益の内訳

### 営業外損益

(単位：億円)

摘 要	16年度決算		17年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
持分法投資損益	10	2	10	30	28
金融収支	△ 11	△ 21	△ 15	△ 30	△ 9
為替差損益	△ 33	△ 13	—	—	13
その他	△ 1	△ 17	△ 15	△ 20	△ 3
営業外損益 合計	△ 35	△ 49	△ 20	△ 20	29

### 特別損益

(単位：億円)

摘 要	16年度決算		17年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
資産売却益	5	26	—	—	△ 26
特別利益計 (A)	5	26	—	—	△ 26
固定資産処分・売却損	24	73	20	70	△ 3
減損損失	3	41	—	—	△ 41
投資有価証券評価損	—	2	—	—	△ 2
その他	—	24	—	—	△ 24
特別損失計 (B)	27	140	20	70	△ 70
特別損益 合計 (A-B)	△ 22	△ 114	△ 20	△ 70	44

## 7) キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

摘 要	16年度決算		17年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	675	1,004	400	950	△ 54
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 206	△ 474	△ 350	△ 850	△ 376
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	469	530	50	100	△ 430
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 223	△ 476	△ 50	△ 100	376
IV. その他	△ 34	△ 7	—	—	7
現預金等増減	212	47	0	0	△ 47

## 8) 株主還元強化

### 利益配分に関する基本方針

利益の配分につきましては、株主の皆様への利益還元及び今後の成長・拡大戦略に備えた内部留保の充実等を総合的に勘案いたします。

2017年度からの株主還元方針としましては、業績の動向を踏まえた継続的な増配に加えて、株価水準や市場環境に応じた機動的かつ柔軟な自己株式の取得により、株主還元を充実・強化することといたします。

具体的には、総還元性向※ 30%以上を段階的に目指してまいります。

※総還元性向 = (配当 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

(従来：連結配当性向25%以上かつ自己資本配当率2%以上)

(その他、重要な後発事象) 詳しくは、別途開示しました各お知らせをご覧ください。

- ① 株式併合、単元株式数の変更及び定款の一部変更
- ② 資本準備金の額の減少

## 9) 連結経営データ

項 目		16年度決算		17年度予想	
		4-9月	年間	4-9月	年間
為 替 レ ー ト	円/\$	105	108	110	110
国産標準ナフサ価格	円/KL	31,450	34,700	42,000	42,000
設 備 投 資 額	億円	187	454	300	740
研 究 開 発 費	億円	148	308	180	360
減 価 償 却 費	億円	215	441	240	490
金 融 収 支	億円	△ 11	△ 21	△ 15	△ 30
期末有利子負債残高	億円	4,552	4,399	4,450	4,500
Net D/Eレシオ	倍	0.92	0.79	0.77	0.73
期 末 従 業 員 数	人	13,487	13,423	13,700	13,700

## 3. 補助資料

- 1) 製品価格の状況
- 2) セグメントの増減概要（売上高・営業利益）
- 3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳（四半期別）
- 4) 主要関係会社の状況
- 5) 財務データ
- 6) 地域別売上高比率
- 7) 2016年度のトピックス

# 1) 製品価格の状況

(PE国内、PP国内、PH国内、BPA国内：国内価格改定幅)

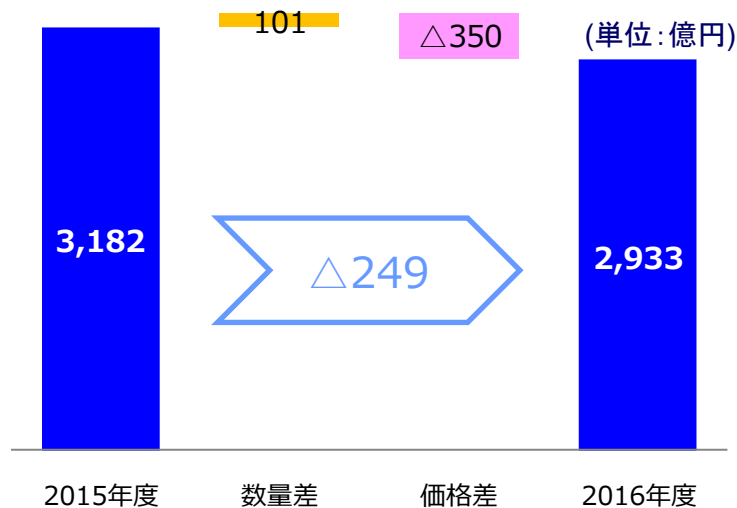
年		2014年			2015年				2016年				2017年
月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
国産基準 ナリ価格	(円/KL)	69,900	70,900	66,000	47,000	48,800	47,200	40,900	34,300	31,600	31,300	34,100	41,800
PE国内	(円/KG)	→	→	→	△30円 程度	→	→	△10円 程度	△10円 程度	→	△10円 程度	→	+20円 程度
PP国内	(円/KG)	→	→	→	△30円 程度	→	→	△10円 程度	△10円 程度	→	△10円 程度	→	+20円 程度
PH国内 (フォーム価格)	(円/KG)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
BZ (*ACP)	(\$/T)	\$1,270	\$1,380	\$1,060	\$650	\$790	\$720	\$610	\$560	\$640	\$640	\$670	\$950
BPA国内	(円/KG)	→	→	→	→	→	→	△30円 (10月~)	→	→	→	→	+20円 (3月~)
BZ・BPA市況をベースに都度交渉													
BPA 中国市況	(\$/T)	\$1,670	\$1,910	\$1,620	\$1,430	\$1,390	\$1,060	\$910	\$940	\$1,140	\$1,130	\$1,170	\$1,360
PTA 中国市況	(\$/T)	\$910	\$980	\$760	\$620	\$720	\$630	\$600	\$570	\$610	\$610	\$610	\$670
PX (*ACP)	(\$/T)	\$1,260	\$1,350	\$1,040	\$780	\$930	\$820	\$790	\$720	\$800	\$790	\$790	\$890
TDI 中国市況	(\$/T)	\$2,320	\$2,340	\$2,280	\$1,940	\$1,740	\$1,570	\$1,510	\$1,510	\$2,080	\$2,360	\$3,590	\$3,480

\*ACP アジア圏契約価格



## 2-1) モビリティセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

### 売上高増減 (2016年度 対 2015年度)



**2,933億円 (前年比  $\Delta$ 249億円)**

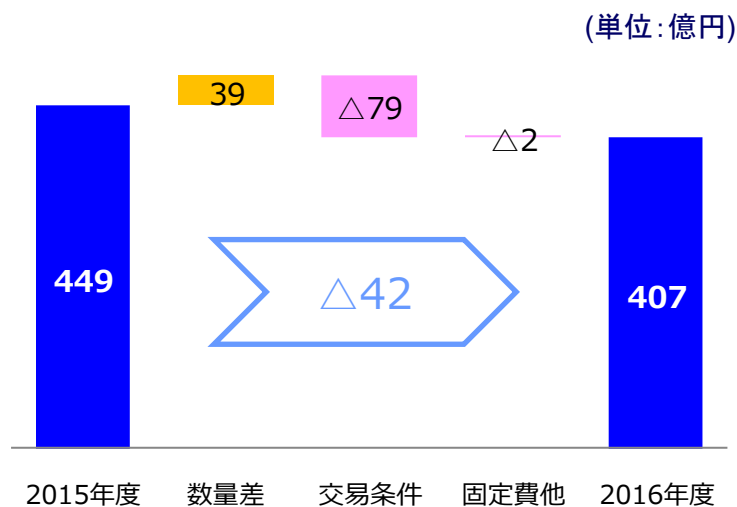
**数量差 +101億円**

- ・自動車用途を中心とした堅調なグローバル需要に的確に対応。
- ・ICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。

**価格差  $\Delta$ 350億円**

- ・原燃料価格下落による販売価格の改定。
- ・為替差等。

### 営業利益増減 (2016年度 対 2015年度)



**407億円 (前年比  $\Delta$ 42億円)**

**数量差 +39億円**

- ・自動車用途を中心とした堅調なグローバル需要に的確に対応。
- ・ICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。

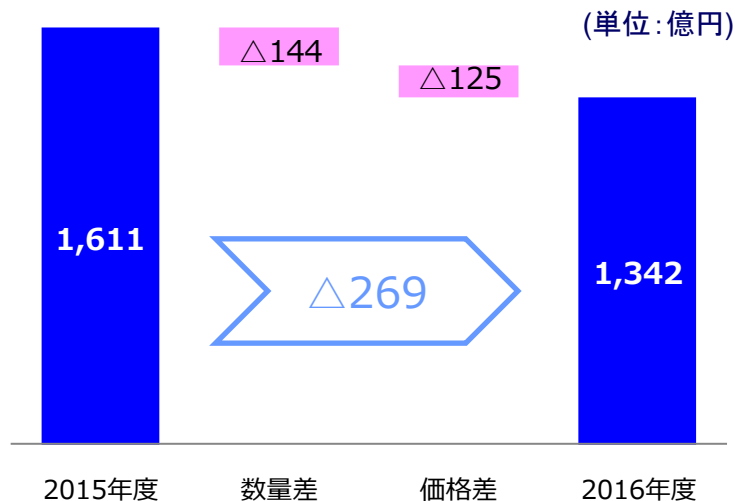
**交易条件  $\Delta$ 79億円**

- ・為替差等の交易条件悪化。

**固定費他  $\Delta$ 2億円**

## 2-2) ヘルスケアセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

### 売上高増減 (2016年度 対 2015年度)



**1,342億円 (前年比 △269億円)**

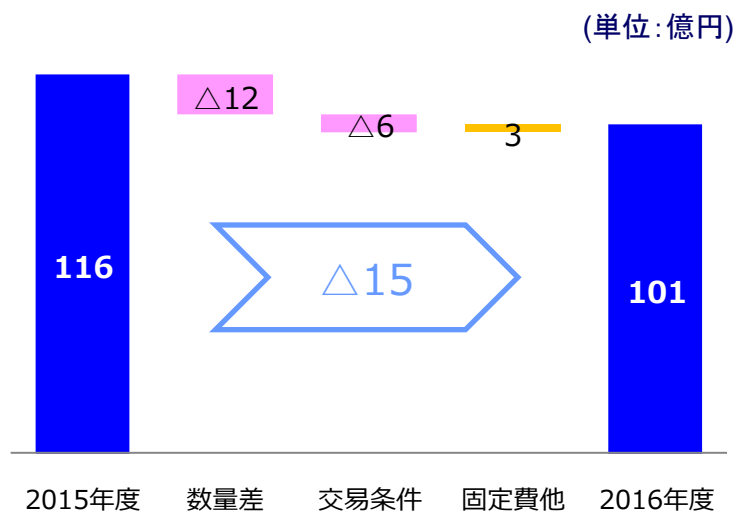
**数量差 △144億円 (内、15年度決算期変更影響: △114)**

- ・ビジョンケア材料及び歯科材料の販売堅調。
- ・不織布における流通在庫調整。

**価格差 △125億円**

- ・原燃料価格下落による販売価格の改定。
- ・為替差等。

### 営業利益増減 (2016年度 対 2015年度)



**101億円 (前年比 △15億円)**

**数量差 △12億円**

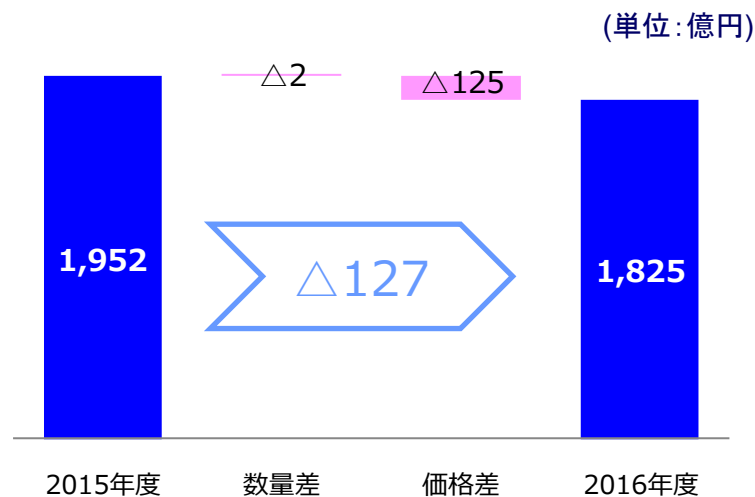
- ・ビジョンケア材料及び歯科材料の販売堅調。
- ・不織布における流通在庫調整。

**交易条件 △6億円**

**固定費他 +3億円**

## 2-3) フード&パッケージングセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

### 売上高増減 (2016年度 対 2015年度)



**1,825億円 (前年比 △127億円)**

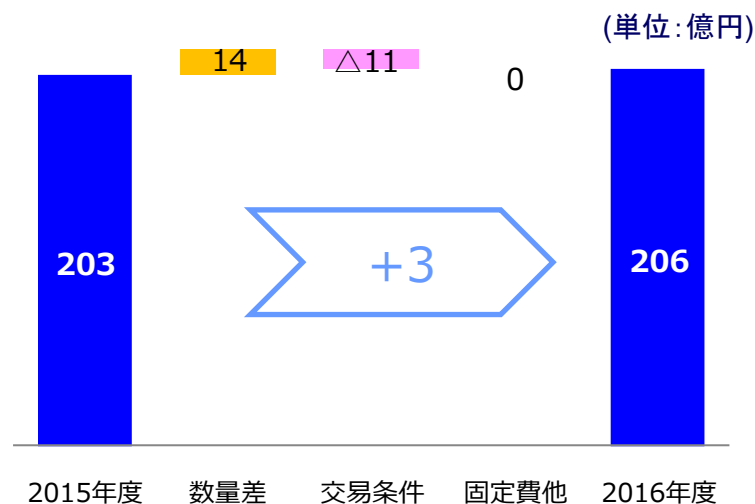
**数量差 △2億円**

- ・コーティング・機能材及び機能性フィルム・シートの販売堅調。
- ・農薬の減販。

**価格差 △125億円**

- ・原燃料価格下落による販売価格の改定。
- ・為替差等。

### 営業利益増減 (2016年度 対 2015年度)



**206億円 (前年比 +3億円)**

**数量差 +14億円**

- ・コーティング・機能材及び機能性フィルム・シートの販売堅調。
- ・農薬の減販。

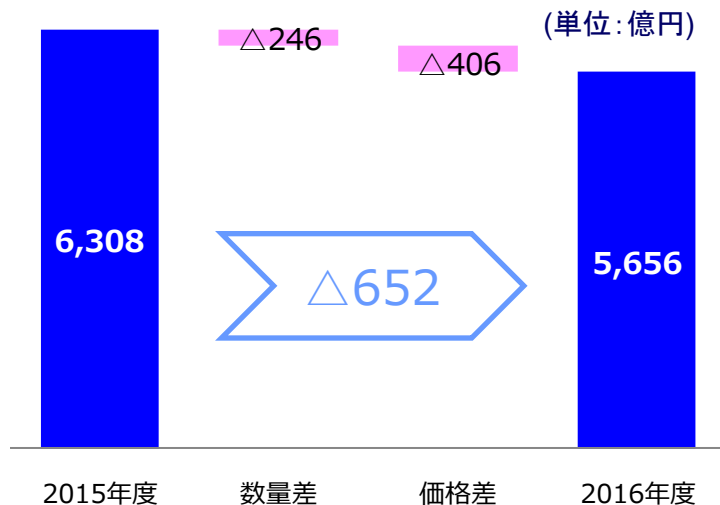
**交易条件 △11億円**

- ・為替差等の交易条件悪化。

**固定費他 ±0億円**

## 2-4) 基盤素材セグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

### 売上高増減 (2016年度 対 2015年度)



**5,656億円 (前年比 △652億円)**

**数量差 △246億円**

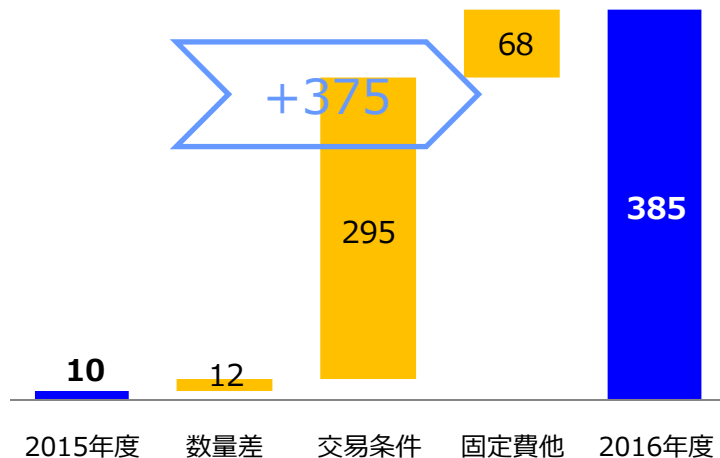
- ・ポリウレタン材料の分社化影響。
- ・事業構造改革による生産規模縮小等。

**価格差 △406億円**

- ・原燃料価格下落による販売価格の改定。
- ・為替差等。

### 営業利益増減 (2016年度 対 2015年度)

(単位: 億円)



**385億円 (前年比 +375億円)**

**数量差 +12億円**

**交易条件 +295億円**

- ・市況、設備稼働改善等。

**固定費他 +68億円**

- ・事業構造改革によるポリウレタン材料のプラント停止効果等。

### 3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳 (四半期別)

#### 売上高推移

(単位：億円)

セグメント	15年度				16年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
モビリティ	862	783	762	775	747	670	744	772
ヘルスケア	492	382	378	359	351	321	328	342
フード&パッケージング	503	463	477	509	444	439	437	505
基盤素材	1,842	1,571	1,523	1,372	1,307	1,225	1,422	1,702
その他	92	96	92	106	88	95	83	101
合計	3,791	3,295	3,232	3,121	2,937	2,750	3,014	3,422

#### 営業利益推移

(単位：億円)

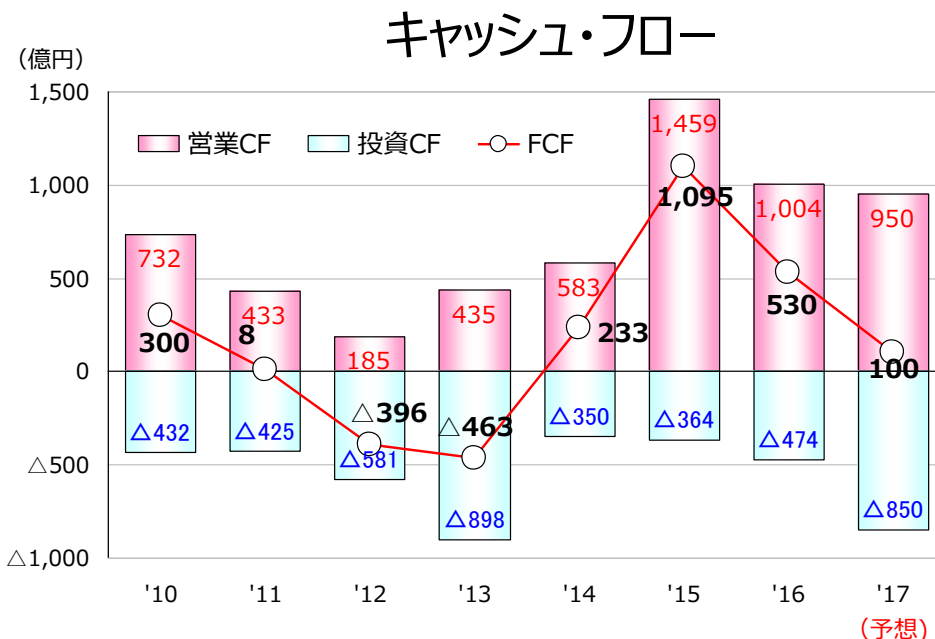
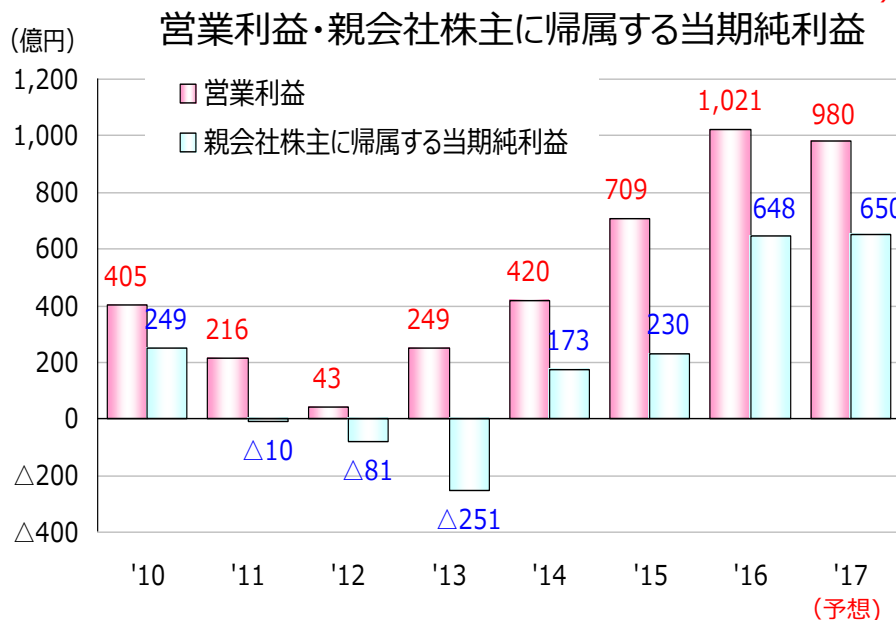
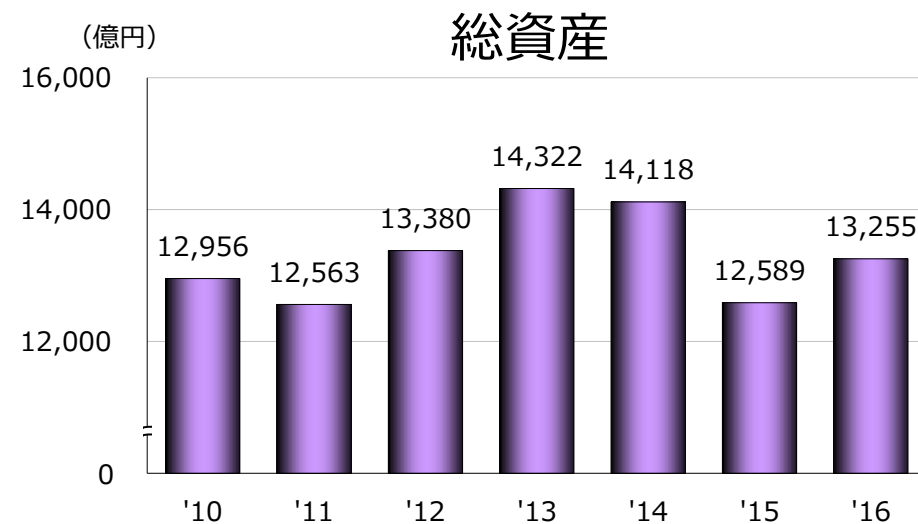
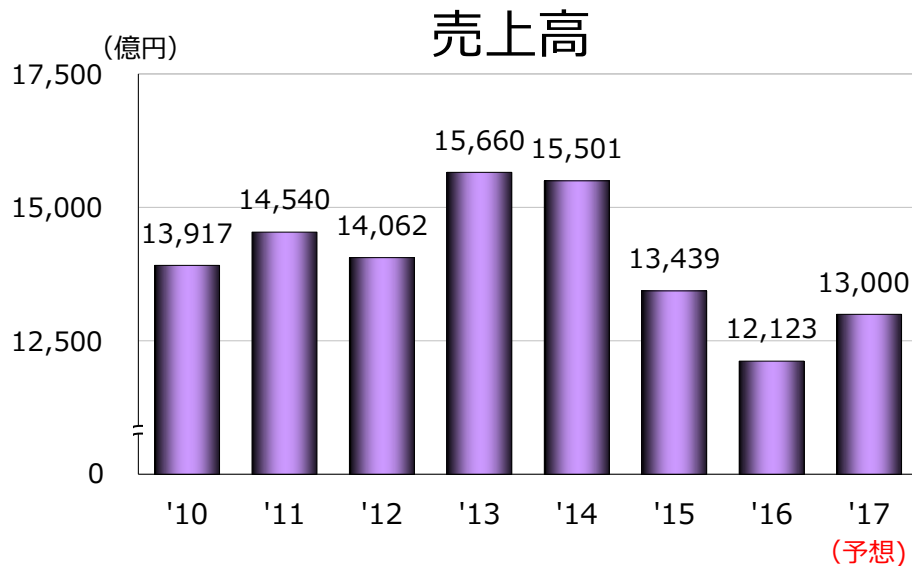
セグメント	15年度				16年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
モビリティ	128	112	109	100	120	91	100	96
ヘルスケア	22	29	33	32	32	22	25	22
フード&パッケージング	65	44	48	46	57	53	39	57
基盤素材	29	14	△ 19	△ 14	70	48	121	146
その他	△ 17	△ 12	△ 21	△ 19	△ 24	△ 15	△ 23	△ 16
合計	227	187	150	145	255	199	262	305

## 4) 主要関係会社の状況

項目	当社シェア	売上規模	営業利益	
		(16年度)	16年度	17年度予想 ※
連結子会社	%	億円		
プライムポリマー	65.0	2,100	黒字	↘ 交易条件(-)
アドバンスド・コンポジット	61.8	1,000	黒字	→
三井フェノールズシンガポール	95.0	400	赤字	→
三井エラストマーズシンガポール	100.0	500	黒字	→
三井化学東セロ	100.0	700	黒字	→
三井化学アグロ	100.0	400	黒字	→
持分法適用会社				
三井・デュポンポリケミカル	50.0	400	黒字	↘
三井・デュポンフロケミカル	50.0	300	黒字	→
上海中石化三井化工	50.0	300	赤字	↘
サイアム三井PTA	50.0	700	黒字	→

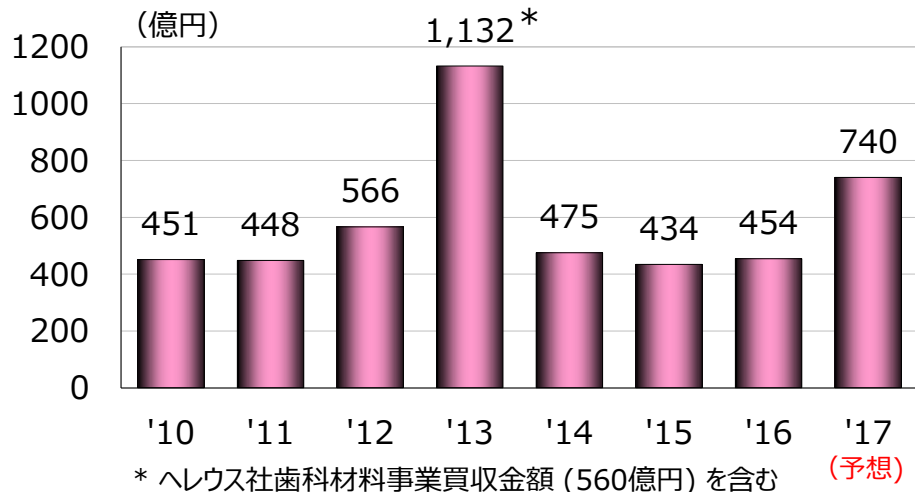
※ 営業利益：→は、対16年度5億円未満の増減。

# 5-1) 財務データ

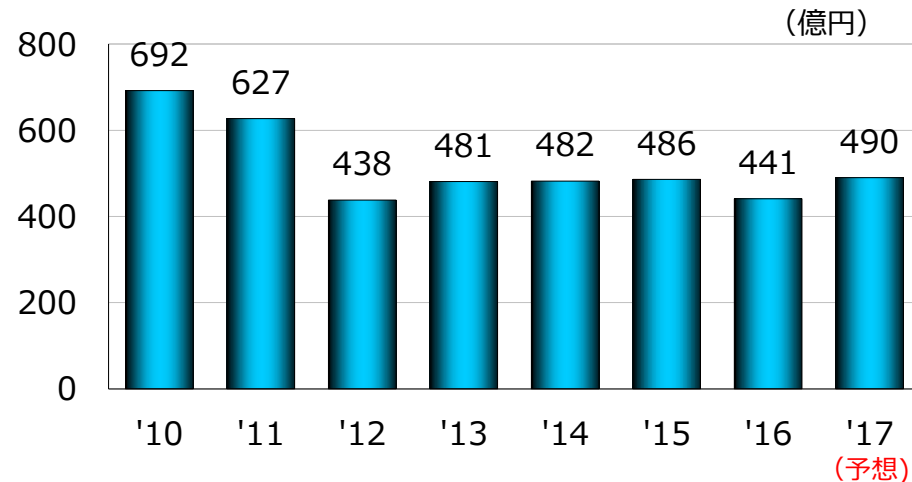


# 5-2) 財務データ

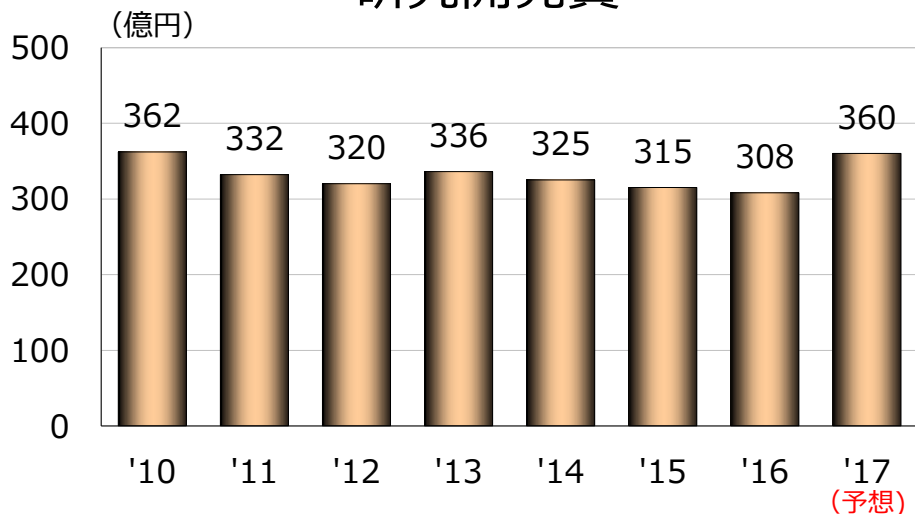
## 設備投資額



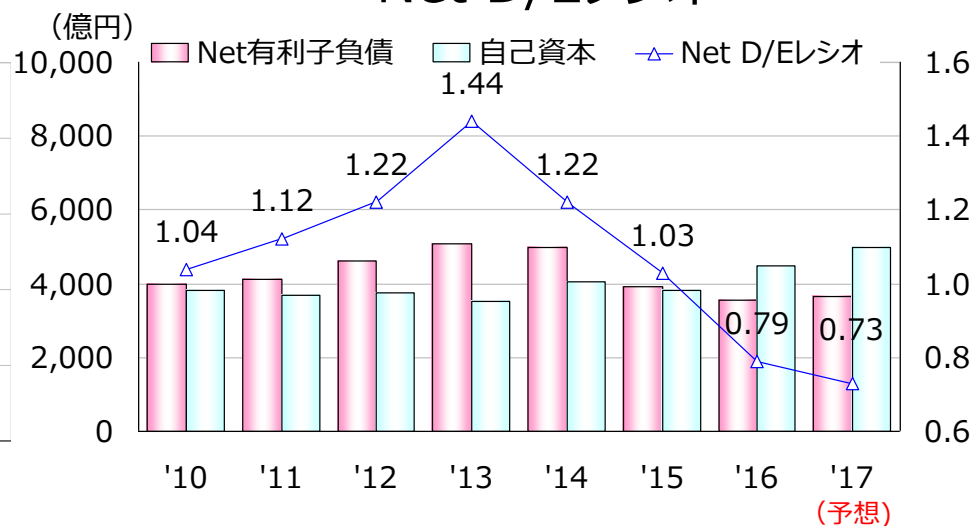
## 減価償却費



## 研究開発費

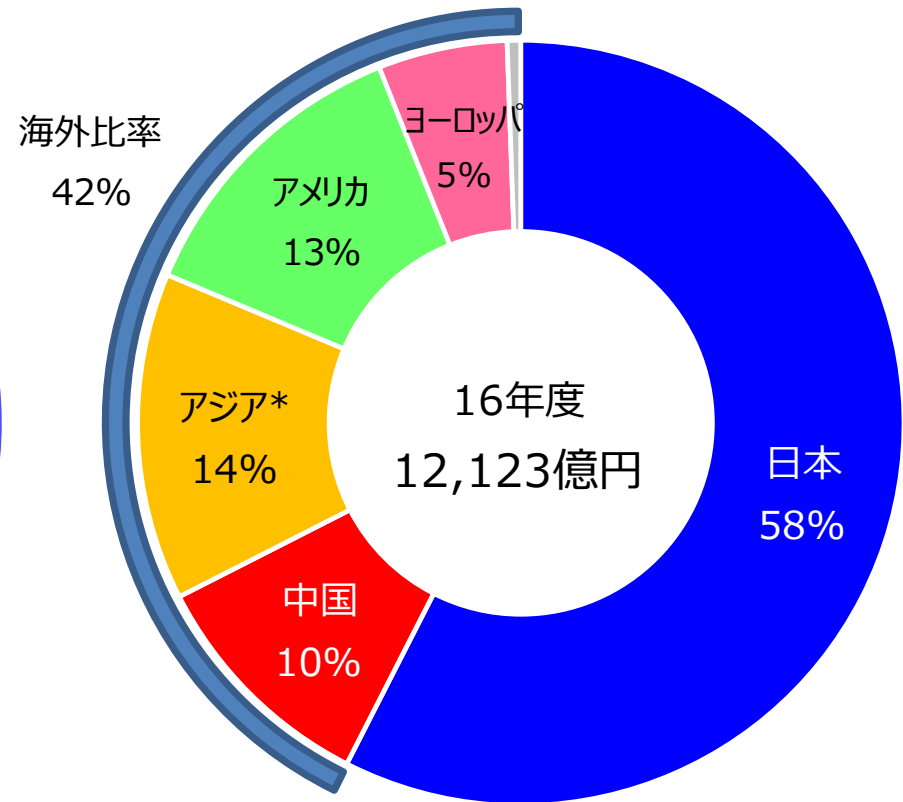
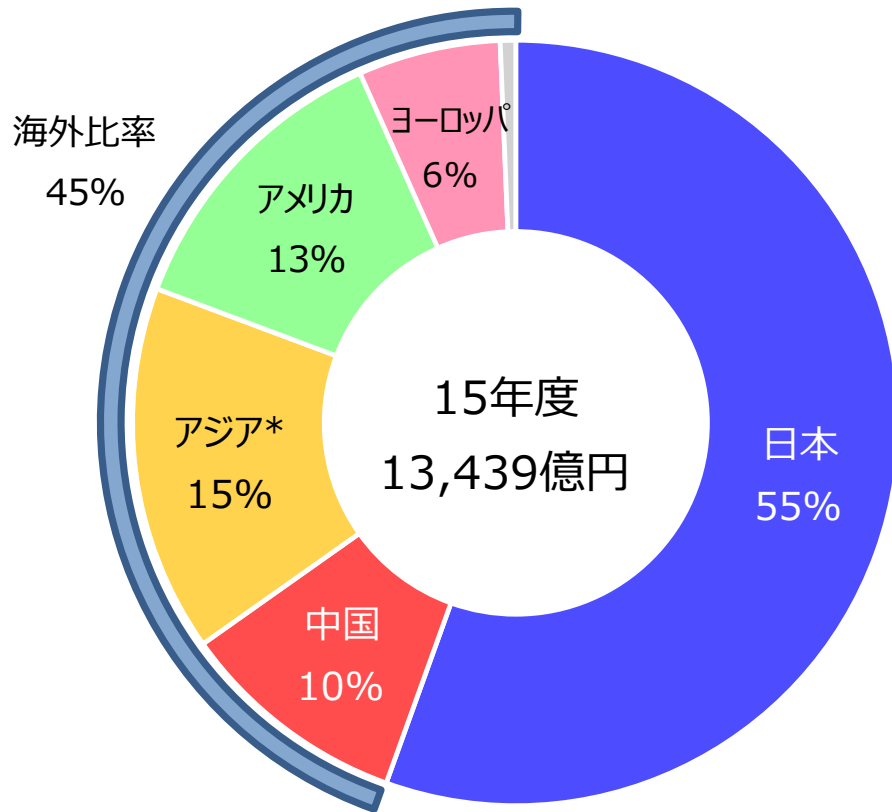


## Net D/Eレシオ





## 6) 地域別売上高比率



\* アジア：日本及び中国を除く

## 7) 2016年度のトピックス

- ・三井化学韓国支社を現地法人化（16年4月）
- ・名古屋工場における高機能不織布設備の増設工事着工（16年4月、1.5万トン/年、17年度第4四半期 営業運転開始予定）
- ・三井化学SKCポリウレタン、システムハウス メキシコ拠点稼働開始（16年4月）
- ・大牟田工場 MDIプラント停止（16年5月、△6万トン/年）
- ・三井化学アグロ、インドPI Industries Limitedとの登録合併会社設立に合意（16年5月）
- ・ポリプロピレン・コンパウンド能力増強工事着工（16年7月）  
（アメリカ・メキシコ・インドの3拠点で+5万トン/年、17年度第2四半期 営業運転開始予定）
- ・柔軟性と伸縮機能に優れた高機能不織布設備の増設工事着工（16年7月、6,000トン/年、17年度第4四半期 営業運転開始予定）
- ・台湾プラスチック社との電解液JVの営業運転開始（16年7月、1,500トン/年）
- ・三井化学アグロ、ベトナム国Cuulong社との事業・資本提携に合意（16年8月）
- ・シンガポールにおける「エポリュー™」プラントの本格稼働開始（16年8月、30万トン/年）
- ・人工知能(AI)を用いて、化学プラントの製造過程で製品の品質予測に成功（16年9月）
- ・高機能サンレンズ材料「NeoContrast™」を開発（16年9月）
- ・敗血症に関する新たな検査システムを事業化へ（16年10月）  
（富山大学との共同研究、AMED産学連携医療イノベーション創出プログラムに採択）
- ・名古屋工場に電解液の製造設備を建設・完工（16年10月、5,000トン/年、17年4月 営業運転開始）
- ・台湾プラスチック社との電解液JVの設備増強工事着工（16年12月、+3,500トン/年、17年度第3四半期 営業運転開始予定）
- ・世界初、調光性色素を含有した高屈折レンズ材料を開発（17年1月）
- ・三井化学アグロ、ベルギー王国 Belchim Crop Protection社の株式取得（17年2月）
- ・三井化学SKCポリウレタン、インドでのシステムハウス現地法人を設立（17年2月）
- ・タイにおける通気性フィルム製造設備の本格稼働開始（17年2月、+4,200トン/年）
- ・三井化学アグロ、タイ王国 Sotus International社の株式追加取得（17年3月）
- ・新規特殊イソシアネート2製品の量産化（17年3月、2,000トン/年）